

## 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)中間評価について

平成17年10月  
21世紀COEプログラム委員会

21世紀COEプログラムは、「大学の構造改革の方針」(平成13年6月)に基づき、平成14年度から文部科学省に新規事業として措置された「研究拠点形成費補助金」により開始されたものである。

このプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的としている。

研究拠点形成費等補助金は、専門家や有識者による評価に基づき、主として研究面においてポテンシャルの高い専攻等が世界最高水準の研究教育拠点を形成するために必要とする経費を専攻等の研究者からなる研究グループに対して補助を行うもので、

- ① 当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有する人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの
  - ② 学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点形成が期待できるもの
  - ③ 特色ある学問分野の開拓を通じて創造的、画期的な成果が期待できるもの
  - ④ 21世紀COEプログラムで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるもの
- に対し、重点的支援を行うものである。

中間評価は、補助金による「21世紀COEプログラム」事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分(重点的・効率的配分)に資することを目的とし、審査・評価に基づき選定された採択拠点について、評価要項に基づいて2年経過後に行うものである。

平成15年度採択拠点については、独立行政法人日本学術振興会において、選定された5分野(医学系、数学・物理学・地球科学、機械・土木・建築・その他工学、社会科学、学際・複合・新領域)の国公私立大学56大学133件の拠点から、拠点形成に係る調書等の提出を受け、21世紀COEプログラム委員会(独立行政法人日本学術振興会を中心に、独立行政法人大学評価・学位授与機構、私立学校振興・共済事業団、大学基準協会の4機関により運営)において、これまでの進捗状況を確認し、当初目的どおりの達成が可能か否かを中心に専門的観点から評価を行ったものである。

10月11日の本委員会において、各分野別審査・評価部会及び総合評価部会における評価結果を受け、131拠点の中間評価結果を取りまとめたところであり、各大学・拠点においては、この結果を基に、今後の計画の推進又は見直しを行い、最大限の成果をあげることを期待し、公表するものである。

また、中止となった2拠点については、これまでの拠点形成に係る状況について、評価コメントとしてまとめたところであり、併せて公表するものである。

別紙資料

1. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)一覧・・・・・・・・・・ 3頁
2. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)における  
分野別中間評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9頁
3. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)における  
中止となった拠点の評価について・・・・・・・・・・・・・・・・ 15頁
4. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)中間評価  
日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17頁
5. 「21世紀COEプログラム」各種委員会委員名簿・・・・・・・・ 21頁
6. 「21世紀COEプログラム」評価要項・・・・・・・・・・・・・・・・ 29頁
7. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)中間評価  
について(個別具体例)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35頁

別添資料

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)中間評価結果

1. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)一覧

【分野名:医学系】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	拠点リーダー名
F01	人獣共通感染症制圧のための研究開発	北海道大学	獣医学研究科獣医学専攻	教授	高島 郁夫
F02	シグナル伝達病の治療戦略創生拠点	東北大学	医学系研究科医科学専攻	教授	菅村 和夫
F03	地域特性を生かした分子疫学研究	山形大学	医学系研究科医学専攻	教授	河田 純男
F04	消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点:遺伝子治療と重粒子線治療の遺伝子解析に基づくテーラーメイド化	千葉大学	医学薬学府先進医療科学専攻	教授	丹沢 秀樹
F05	日本文化型看護学の創出・国際発信拠点(実践知に基づく看護学の確立と展開)	千葉大学	看護学研究科看護学専攻	教授	石垣 和子
F06	脳神経医学の融合的な研究拠点	東京大学	医学系研究科脳神経医学専攻	教授	辻 省次
F07	環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究-システム疾患生命科学の研究拠点形成-	東京大学	医学系研究科内科学専攻	教授	永井 良三
F08	ゲノム医学の展開による先端医療開発拠点	東京大学	医科学研究所	教授	中村 祐輔
F09	歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア(ゲノム歯骨科学とナノサイエンスの研究教育拠点)	東京医科歯科大学	歯科学総合研究科器官システム制御学系専攻	教授	野田 政樹
F10	脳の機能統合とその失調	東京医科歯科大学	歯科学総合研究科認知行動医学系専攻	教授	水澤 英洋
F11	脳神経病理学研究教育拠点形成	新潟大学	脳研究所	教授	高橋 均
F12	生体画像医学の統合研究プログラム	福井大学	高エネルギー医学研究センター	教授	米倉 義晴
F13	メディカルフォトリクス-こころとからだの危険を探る-	浜松医科大学	光量子医学研究センター	教授	寺川 進
F14	神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成	名古屋大学	医学系研究科細胞情報医学専攻	教授	祖父江 元
F15	病態解明を目指す基礎医学研究拠点(多重遺伝子変異モデルによる病態解明)	京都大学	医学研究科分子医学系専攻	教授	本庶 佑
F16	融合的移植再生治療を目指す国際拠点形成	京都大学	医学研究科外科系専攻	教授	内山 卓
F17	感染症学・免疫学融合プログラム	大阪大学	医学系研究科予防環境医学専攻	教授	審良 静男
F18	疾患関連糖鎖・タンパク質の統合的機能解析	大阪大学	医学系研究科生体生理医学専攻	教授	谷口 直之
F19	フロンティアバイオデンティストリーの創生	大阪大学	歯学研究科分子病態口腔科学専攻	教授	米田 俊之
F20	糖尿病をモデルとしたシグナル伝達病拠点	神戸大学	医学系研究科医科学専攻	教授	春日 雅人
F21	放射線災害医療開発の先端的な研究教育拠点-ゲノム障害科学に基づく学術基盤の確立と医療展開-	広島大学	原爆放射線医学研究所	教授	神谷 研二
F22	多因子疾患克服に向けたプロテオミクス研究	徳島大学	ヘルスバイオサイエンス研究部	教授	松本 俊夫
F23	大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育-久山型研究を応用した日本人特有の発症因子の解明と先端医療の開発-	九州大学	医学系学府臓器機能医学専攻	教授	高柳 涼一
F24	熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点	長崎大学	熱帯医学研究所	教授	青木 克己
F25	細胞極性システム研究に基づく未来医療創成(からの形づくりの仕組みの解明から病気の克服へ)	横浜市立大学	医学研究科生命分子情報医学専攻	教授	大野 茂男
F26	ユビキタス社会における災害看護拠点の形成	兵庫県立大学	看護学研究科看護学専攻	教授	山本 あい子
F27	先端医学の地域医療への展開	自治医科大学	医学研究科人間生物学系専攻	教授	小澤 敬也
F28	低侵襲・新治療開発による個別化癌医療確立	慶應義塾大学	医学研究科外科系専攻	教授	北島 政樹
F29	幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点-ヒト細胞とin vivo 実験医学を基盤とした新しい展開-	慶應義塾大学	医学研究科生理系専攻	教授	岡野 栄之
F30	病院感染予防のための国際的教育研究拠点	順天堂大学	医学研究科環境と人間専攻	教授	平松 啓一
F31	市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点	聖路加看護大学	看護学研究科看護学専攻	教授	小松 浩子
F32	再生医学研究センター(細胞シート工学を基盤とする臓器再生医療の発展)	東京女子医科大学	医学研究科先端生命医学系専攻	教授	岡野 光夫
F33	超低侵襲標的化診断治療開発センター	藤田保健衛生大学	医学研究科内科系専攻	教授	浅野 喜造
F34	難病の革新的治療法の開発研究-骨髄内骨髄移植を用いた難病モデルでの検討-	関西医科大学	医学研究科先端医療学専攻	教授	池原 進
F35	先端的な癌治療研究の拠点	久留米大学	先端癌治療研究センター	教授	伊東 恭悟

【分野名:数学・物理学・地球科学】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	拠点リーダー名
G01	特異性から見た非線形構造の数学	北海道大学	理学研究科数学専攻	教授	小澤 徹
G02	物質階層融合科学の構築	東北大学	理学研究科物理学専攻	教授	鈴木 厚人
G03	先端地球科学技術による地球の未来像創出	東北大学	理学研究科地学専攻	教授	大谷 栄治
G04	超高性能有機ソフトデバイスフロンティア	千葉大学	自然科学研究科多様性科学専攻	教授	上野 信雄
G05	科学技術への数学新展開拠点	東京大学	数理科学研究科数理科学専攻	教授	楠岡 成雄
G06	極限量子系とその対称性	東京大学	理学系研究科物理学専攻	教授	佐藤 勝彦
G07	多圏地球システムの進化と変動の予測可能性—観測地球科学と計算地球科学の融合拠点の形成—	東京大学	理学系研究科地球惑星科学専攻	教授	山形 俊男
G08	強相関物理工学	東京大学	工学系研究科物理工学専攻	教授	十倉 好紀
G09	量子ナノ物理学	東京工業大学	理工学研究科物性物理学専攻	教授	安藤 恒也
G10	コヒーレント光科学の展開	電気通信大学	電気通信学研究科量子・物質工学専攻	教授	白田 耕藏
G11	宇宙と物質の起源:宇宙史の物理学的解読	名古屋大学	理学研究科素粒子宇宙物理学専攻	教授	福井 康雄
G12	等式が生む数学の新概念	名古屋大学	多元数理科学研究科多元数理科学専攻	教授	宇澤 達
G13	太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学	名古屋大学	環境学研究科地球環境科学専攻	教授	安成 哲三
G14	先端数学の国際拠点形成と次世代研究者育成	京都大学	数理解析研究所	教授	柏原 正樹
G15	物理学の多様性と普遍性の探求拠点—素核・物性・宇宙を統合して推進する研究と教育—	京都大学	理学研究科物理学・宇宙物理学専攻	教授	小山 勝二
G16	活地球圏の変動解明:アジア・オセアニアから世界への発信	京都大学	理学研究科地球惑星科学専攻	教授	余田 成男
G17	究極と統合の新しい基礎科学	大阪大学	理学研究科物理学専攻	教授	大貫 惇睦
G18	物質機能の科学的解明とナノ工学の創出	大阪大学	基礎工学研究科物質創成専攻	教授	三宅 和正
G19	惑星系の起源と進化	神戸大学	自然科学研究科地球惑星システム科学専攻	教授	向井 正
G20	固体地球科学の国際研究拠点形成	岡山大学	地球物質科学研究センター	教授	中村 栄三
G21	機能数理学の構築と展開	九州大学	数理学府数理学専攻	教授	中尾 充宏
G22	結び目を焦点とする広角度の数学拠点の形成	大阪市立大学	理学研究科数物系専攻	教授	河内 明夫
G23	統合数理科学:現象解明を通じた数学の発展	慶應義塾大学	理工学研究科基礎理工学専攻	教授	前田 吉昭
G24	多元要素からなる自己組織系の物理	早稲田大学	理工学研究科物理学及応用物理学専攻	教授	石渡 信一

【分野名:機械・土木・建築・その他工学】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	拠点リーダー名
H01	流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム	北海道大学	工学研究科環境創生工学専攻	教授	渡辺 義公
H02	ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア	東北大学	工学研究科機械システムデザイン工学専攻	教授	庄子 哲雄
H03	流動ダイナミクス国際研究教育拠点	東北大学	流体科学研究所	教授	圓山 重直
H04	機械システム・イノベーション	東京大学	工学系研究科機械工学専攻	教授	笠木 伸英
H05	都市空間の持続再生学の創出	東京大学	工学系研究科都市工学専攻	教授	大垣 眞一郎
H06	先端ロボット開発を核とした創造技術の革新	東京工業大学	理工学研究科機械宇宙システム専攻	教授	廣瀬 茂男
H07	都市地震工学の展開と体系化	東京工業大学	総合理工学研究科人間環境システム専攻	教授	大町 達夫
H08	世界の持続的発展を支える革新的原子力	東京工業大学	理工学研究科原子核工学専攻	教授	関本 博
H09	アジアモンsoon域流域総合水管理研究教育	山梨大学	医学工学総合研究部・環境社会創生工学専攻	教授	竹内 邦良
H10	情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス	名古屋大学	工学研究科マイクロ・ナノシステム工学専攻	教授	三矢 保永
H11	動的機能機械システムの数理モデルと設計論	京都大学	工学研究科機械理工学専攻	教授	土屋 和雄
H12	原子論的生産技術の創出拠点(ナノメートルレベルの表面創成システムの開発)	大阪大学	工学研究科附属超精密科学研究センター	教授	遠藤 勝義
H13	安全と共生のための都市空間デザイン戦略	神戸大学	自然科学研究科地域空間創生科学専攻	教授	重村 力
H14	循環型住空間システムの構築	九州大学	人間環境学府空間システム専攻	教授	川瀬 博
H15	水素利用機械システムの統合技術	九州大学	工学府機械科学専攻	教授	村上 敬宜
H16	衝撃エネルギー科学の深化と応用	熊本大学	自然科学研究科生産システム科学専攻	教授	秋山 秀典
H17	巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成	首都大学東京	工学研究科建築学専攻	教授	深尾 精一
H18	知能化から生命化へのシステムデザイン	慶應義塾大学	理工学研究科開放環境科学専攻	教授	吉田 和夫
H19	操作能力熟達に適応するメカトロニクス	東京電機大学	理工学研究科応用システム工学専攻	教授	古田 勝久
H20	先導的建築火災安全工学研究の推進拠点	東京理科大学	総合研究所火災科学研究部門	教授	若松 孝旺
H21	超高齢社会における人とロボット技術の共生	早稲田大学	理工学研究科機械工学専攻	教授	藤江 正克
H22	都市・建築物へのウインド・イフェクト	東京工芸大学	工学研究科建築学専攻	教授	田村 幸雄
H23	文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点	立命館大学	理工学研究科総合理工学専攻	教授	村橋 正武

【分野名:社会科学】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	拠点リーダー名
101	新世代知的財産法政策学の国際拠点形成	北海道大学	法学研究科法学政治学専攻	教授	田村 善之
102	社会階層と不平等研究教育拠点の形成	東北大学	文学研究科人間科学専攻	教授	佐藤 嘉倫
103	男女共同参画社会の法と政策—ジェンダー法・政策研究センター	東北大学	法学研究科総合法制専攻	教授	辻村 みよ子
104	国家と市場の相互関係におけるソフトロー・ビジネスローの戦略的研究教育拠点形成	東京大学	法学政治学研究科	教授	中山 信弘
105	先進国における《政策システム》の創出:比較政策システム・シナジー・コアの構築	東京大学	法学政治学研究科総合法政専攻	教授	高橋 進
106	市場経済と非市場機構との連関研究拠点	東京大学	経済学研究科経済理論専攻	教授	吉川 洋
107	ものづくり経営研究センター	東京大学	経済学研究科企業・市場専攻	教授	藤本 隆宏
108	知識・企業・イノベーションのダイナミクス	一橋大学	商学研究科経営・会計専攻	教授	伊丹 敬之
109	現代経済システムの規範的評価と社会的選択	一橋大学	経済学研究科応用経済専攻	教授	鈴木 興太郎
110	社会科学の統計分析拠点構築	一橋大学	経済研究所	教授	斎藤 修
111	アジアの開発経験と他地域への適用可能性	政策研究大学院大学	政策研究科政策専攻	教授	大野 健一
112	21世紀型法秩序形成プログラム	京都大学	法学研究科法政理論専攻	教授	大石 眞
113	先端経済分析のインターフェイス拠点の形成(理論・応用・政策の創生と融合)	京都大学	経済研究所	教授	佐和 隆光
114	アンケート調査と実験による行動マクロ動学	大阪大学	経済学研究科経済学専攻	教授	筒井 義郎
115	「市場化社会の法動態学」研究教育拠点—規範生成・規整・紛争管理の多元性をめぐる理論構築と臨床応用—	神戸大学	法学研究科理論法学専攻	教授	樫村 志郎
116	新しい日本型経済パラダイムの研究教育拠点—グローバル化と人口減少下の持続可能経済—	神戸大学	経済学研究科総合経済政策専攻	教授	山口 三十四
117	先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点	神戸大学	経営学研究科現代経営学専攻	教授	加護野 忠男
118	金融市場のミクロ構造と制度設計	東京都立大学	社会科学部研究科経済政策専攻	教授	渡部 敏明
119	市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—	慶應義塾大学	経済学研究科経済学専攻	教授	吉野 直行
120	多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成—多文化世界における市民意識の動態—	慶應義塾大学	法学研究科政治学専攻	教授	小林 良彰
121	日本・アジアにおける総合政策学先導拠点—ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して—	慶應義塾大学	政策・メディア研究科政策・メディア専攻	教授	大江 守之
122	開かれた政治経済制度の構築—早稲田大学国際政治経済研究センター構想—	早稲田大学	経済学研究科応用経済学専攻	教授	藪下 史郎
123	企業社会の変容と法システムの創造—企業・金融資本市場法制の再構築とアジアの挑戦—	早稲田大学	法学研究科民事法学専攻	教授	上村 達男
124	福祉社会開発の政策科学形成へのアジア拠点	日本福祉大学	社会福祉学研究科社会福祉学専攻	教授	二木 立
125	技術・企業・国際競争力の総合研究	同志社大学	総合政策科学研究科総合政策科学専攻	教授	中田 喜文
126	「人類の幸福に資する社会調査」の研究:文化的多様性を尊重する社会の構築	関西学院大学	社会学研究科社会学専攻	教授	高坂 健次

【分野名:学際・複合・新領域】

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	拠点リーダー名
J01	新・自然史科学創成:自然界における多様性の起源と進化	北海道大学	理学研究科地球惑星科学専攻	教授	岡田 尚武
J02	スラブ・ユーラシア学の構築:中域圏の形成と地球化	北海道大学	スラブ研究センター	教授	家田 修
J03	こころを解明する感性科学の推進	筑波大学	人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻	教授	榊 正幸
J04	生物多様性・生態系再生研究拠点	東京大学	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	教授	鷺谷 いづみ
J05	心とことば—進化認知科学的展開	東京大学	総合文化研究科言語情報科学専攻	教授	長谷川 寿一
J06	大規模知識資源の体系化と活用基盤構築	東京工業大学	情報理工学研究科計算工学専攻	教授	古井 貞熙
J07	ジェンダー研究のフロンティア—〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築—	お茶の水女子大学	ジェンダー研究センター	教授	戒能 民江
J08	グリーンエネルギー革命による環境再生	長岡技術科学大学	工学研究科エネルギー・環境工学専攻	教授	原田 秀樹
J09	東洋の知に立脚した個の医療の創生	富山医科薬科大学	医学系研究科医科学専攻	教授	嶋田 豊
J10	知識科学に基づく科学技術の創造と実践	北陸先端科学技術大学院大学	知識科学研究科知識システム基礎学専攻	教授	中森 義輝
J11	同位体が拓く未来—同位体科学の基盤から応用まで—	名古屋大学	工学研究科マテリアル理工学専攻	教授	山本 一良
J12	ゲノム科学の知的情報基盤・研究拠点形成	京都大学	化学研究所バイオインフォマティクスセンター	教授	金久 實
J13	微生物機能の戦略的活用による生産基盤拠点	京都大学	農学研究科応用生命科学専攻	教授	清水 昌
J14	東アジア世界の人文情報学研究教育拠点—漢字文化の全き継承と発展のために—	京都大学	人文科学研究所	教授	高田 時雄
J15	循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント	岡山大学	環境学研究科資源環境学専攻	教授	田中 勝
J16	社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点	広島大学	国際協力研究科開発科学専攻	教授	松岡 俊二
J17	ストレス制御をめざす栄養科学	徳島大学	ヘルスバイオサイエンス研究部	教授	武田 英二
J18	感覚特性に基づく人工環境デザイン研究拠点	九州大学	芸術工学府芸術工学専攻	教授	栃原 裕
J19	生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界	九州工業大学	生命体工学研究科脳情報専攻	教授	山川 烈
J20	「平和・安全・共生」研究教育の形成と展開	国際基督教大学	行政学研究科行政学専攻	教授	村上 陽一郎
J21	新機能微生物科学とナノテクノロジーの融合	東洋大学	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	教授	前川 透
J22	環境適応生物を活用する環境修復技術の開発	日本大学	生物資源科学研究科生物環境科学専攻	教授	佐々木 恵彦
J23	人類文化研究のための非文字資料の体系化	神奈川大学	歴史民俗資料科学研究科歴史民俗資料科学専攻	教授	福田 アジオ
J24	—神教の学際的研究(文明の共存と安全保障の視点から)	同志社大学	神学研究科歴史神学専攻	教授	森 孝一
J25	クロマグロ等の魚類養殖産業支援型研究拠点	近畿大学	水産研究所	教授	熊井 英水

2. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)における  
分野別中間評価について

[各分野別総括評価結果]

総括評価	医学系	数学・物理学・地球科学	機械・土木・建築・その他工学	社会科学	学際・複合・新領域	5分野
<input type="checkbox"/> 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される	16	11	11	13	7	58
<input type="checkbox"/> 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される	17	12	11	12	17	69
<input type="checkbox"/> このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される	2	0	1	0	1	4
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われる	0	0	0	0	0	0
計	35	23	23	25	25	131



(中間評価における「総括評価」)

【分野名:医学系】

□当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される → 16件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
F02	シグナル伝達病の治療戦略創生拠点	東北大学
F06	脳神経医学の融合的研究拠点	東京大学
F07	環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究-システム疾患生命科学の研究拠点形成-	東京大学
F08	ゲノム医学の展開による先端医療開発拠点	東京大学
F09	歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア(ゲノム歯骨科学とナノサイエンスの研究教育拠点)	東京医科歯科大学
F10	脳の機能統合とその失調	東京医科歯科大学
F14	神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成	名古屋大学
F15	病態解明を目指す基礎医学研究拠点(多重遺伝子変異モデルによる病態解明)	京都大学
F16	融合的移植再生治療を目指す国際拠点形成	京都大学
F17	感染症学・免疫学融合プログラム	大阪大学
F18	疾患関連糖鎖・タンパク質の統合的機能解析	大阪大学
F20	糖尿病をモデルとしたシグナル伝達病拠点	神戸大学
F24	熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点	長崎大学
F27	先端医学の地域医療への展開	自治医科大学
F29	幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点-ヒト細胞とin vivo 実験医学を基盤とした新しい展開-	慶應義塾大学
F32	再生医学研究センター(細胞シート工学を基盤とする臓器再生医療の発展)	東京女子医科大学

□当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される → 17件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
F01	人獣共通感染症制圧のための研究開発	北海道大学
F03	地域特性を生かした分子疫学研究	山形大学
F04	消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点: 遺伝子治療と重粒子線治療の遺伝子解析に基づくテーラーメイド化	千葉大学

F11	脳神経病理学研究教育拠点形成	新潟大学
F12	生体画像医学の統合研究プログラム	福井大学
F13	メディカルフォトニクス-こころとからだの危険	浜松医科大学
F19	フロンティアバイオデンティストリーの創生	大阪大学
F21	放射線災害医療開発の先端的研究教育拠点-ゲノム障害科学に基づく学術基盤の確立と医療展開-	広島大学
F22	多因子疾患克服に向けたプロテオミクス研究	徳島大学
F23	大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育-久山型研究を応用した日本人特有の発症因子の解明と先端医療の開発-	九州大学
F25	細胞極性システム研究に基づく未来医療創成(からだの形づくりの仕組みの解明から病気の克服へ)	横浜市立大学
F26	ユビキタス社会における災害看護拠点の形成	兵庫県立大学
F28	低侵襲・新治療開発による個別化癌医療確立	慶應義塾大学
F30	病院感染予防のための国際的教育研究拠点	順天堂大学
F31	市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点	聖路加看護大学
F33	超低侵襲標的化診断治療開発センター	藤田保健衛生大学
F35	先端的な癌治療研究の拠点	久留米大学

□このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される → 2件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
F05	日本文化型看護学の創出・国際発信拠点(実践知に基づく看護学の確立と展開)	千葉大学
F34	難病の革新的治療法の開発研究-骨髄内骨髄移植を用いた難病モデルでの検討-	関西医科大学

(中間評価における「総括評価」)

【分野名:数学・物理学・地球科学】

□当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される → 11件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
G01	特異性から見た非線形構造の数学	北海道大学
G02	物質階層融合科学の構築	東北大学
G03	先端地球科学技術による地球の未来像創出	東北大学
G06	極限量子系とその対称性	東京大学
G07	多圏地球システムの進化と変動の予測可能性—観測地球科学と計算地球科学の融合拠点の形成—	東京大学
G08	強相関物理工学	東京大学
G14	先端数学の国際拠点形成と次世代研究者育成	京都大学
G15	物理学の多様性と普遍性の探求拠点—素核・物性・宇宙を統合して推進する研究と教育—	京都大学
G18	物質機能の科学的解明とナノ工学の創出	大阪大学
G20	固体地球科学の国際研究拠点形成	岡山大学
G23	統合数理科学:現象解明を通じた数学の発展	慶應義塾大学

□当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される → 12件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
G04	超高性能有機ソフトデバイスフロンティア	千葉大学
G05	科学技術への数学新展開拠点	東京大学
G09	量子ナノ物理学	東京工業大学
G10	コヒーレント光科学の展開	電気通信大学
G11	宇宙と物質の起源:宇宙史の物理学的解読	名古屋大学
G13	太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学	名古屋大学
G16	活地球圏の変動解明:アジア・オセアニアから世界への発信	京都大学
G17	究極と統合の新しい基礎科学	大阪大学
G19	惑星系の起源と進化	神戸大学
G21	機能数理学の構築と展開	九州大学
G22	結び目を焦点とする広角度の数学拠点の形成	大阪市立大学
G24	多元要素からなる自己組織系の物理	早稲田大学

(中間評価における「総括評価」)

【分野名:機械・土木・建築・その他工学】

□当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される → 11件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
H01	流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム	北海道大学
H03	流動ダイナミクス国際研究教育拠点	東北大学
H04	機械システム・イノベーション	東京大学
H05	都市空間の持続再生学の創出	東京大学
H07	都市地震工学の展開と体系化	東京工業大学
H09	アジアモンスーン域流域総合水管理研究教育	山梨大学
H10	情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス	名古屋大学
H11	動的機能機械システムの数理モデルと設計論	京都大学
H16	衝撃エネルギー科学の深化と応用	熊本大学
H22	都市・建築物へのウインド・イフェクト	東京工芸大学
H23	文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点	立命館大学

□当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される → 11件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
H02	ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア	東北大学
H06	先端ロボット開発を核とした創造技術の革新	東京工業大学
H08	世界の持続的発展を支える革新的原子力	東京工業大学
H12	原子論的生産技術の創出拠点(ナノメートルレベルの表面創成システムの開発)	大阪大学
H13	安全と共生のための都市空間デザイン戦略	神戸大学
H14	循環型住空間システムの構築	九州大学
H15	水素利用機械システムの統合技術	九州大学
H17	巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成	首都大学東京

H19	操作能力熟達に適應するメカトロニクス	東京電機大学
H20	先導的建築火災安全工学研究の推進拠点	東京理科大学
H21	超高齢社会における人とロボット技術の共生	早稲田大学

□このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切な変更が必要と判断される → 1件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
H18	知能化から生命化へのシステムデザイン	慶應義塾大学

(中間評価における「総括評価」)

【分野名:社会科学】

□当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される → 13件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
102	社会階層と不平等研究教育拠点の形成	東北大学
104	国家と市場の相互関係におけるソフトロー—ビジネスローの戦略的研究教育拠点形成	東京大学
107	ものづくり経営研究センター	東京大学
108	知識・企業・イノベーションのダイナミクス	一橋大学
109	現代経済システムの規範的評価と社会的選択	一橋大学
110	社会科学の統計分析拠点構築	一橋大学
111	アジアの開発経験と他地域への適用可能性	政策研究大学院大学
114	アンケート調査と実験による行動マクロ動学	大阪大学
117	先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点	神戸大学
119	市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—	慶應義塾大学
120	多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成—多文化世界における市民意識の動態—	慶應義塾大学
123	企業社会の変容と法システムの創造—企業・金融資本市場法制の再構築とアジアの挑戦—	早稲田大学
125	技術・企業・国際競争力の総合研究	同志社大学

□当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される → 12件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
101	新世代知的財産法政策学の国際拠点形成	北海道大学
103	男女共同参画社会の法と政策—ジェンダー法・政策研究センター	東北大学
105	先進国における《政策システム》の創出:比較政策システム・シナジー・コアの構築	東京大学
106	市場経済と非市場機構との連関研究拠点	東京大学
112	21世紀型法秩序形成プログラム	京都大学
113	先端経済分析のインターフェイス拠点の形成(理論・応用・政策の創生と融合)	京都大学
115	「市場化社会の法動態学」研究教育拠点—規範生成・規整・紛争管理の多元性をめぐる理論構築と臨床応用—	神戸大学
116	新しい日本型経済パラダイムの研究教育拠点—グローバル化と人口減少下の持続可能経済—	神戸大学
121	日本・アジアにおける総合政策学先導拠点—ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して—	慶應義塾大学
122	開かれた政治経済制度の構築—早稲田大学国際政治経済研究センター構想—	早稲田大学
124	福祉社会開発の政策科学形成へのアジア拠点	日本福祉大学
126	「人類の幸福に資する社会調査」の研究:文化的多様性を尊重する社会の構築	関西学院大学

(中間評価における「総括評価」)

【分野名:学際・複合・新領域】

□当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される → 7件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
J02	スラブ・ユーラシア学の構築:中域圏の形成と地球化	北海道大学
J08	グリーンエネルギー革命による環境再生	長岡技術科学大学
J09	東洋の知に立脚した個の医療の創生	富山医科薬科大学
J12	ゲノム科学の知的情報基盤・研究拠点形成	京都大学
J17	ストレス制御をめざす栄養科学	徳島大学
J19	生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界	九州工業大学
J25	クロマグロ等の魚類養殖産業支援型研究拠点	近畿大学

J20	「平和・安全・共生」研究教育の形成と展開	国際基督教大学
J21	新機能微生物科学とナノテクノロジーの融合	東洋大学
J22	環境適応生物を活用する環境修復技術の開発	日本大学
J23	人類文化研究のための非文字資料の体系化	神奈川大学
J24	一神教の学際的研究(文明の共存と安全保障の視点から)	同志社大学

□このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される → 1件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
J10	知識科学に基づく科学技術の創造と実践	北陸先端科学技術大学院大学

□当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される → 17件

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名
J01	新・自然史科学創成:自然界における多様性の起源と進化	北海道大学
J03	こころを解明する感性科学の推進	筑波大学
J04	生物多様性・生態系再生研究拠点	東京大学
J05	心とことば—進化認知科学的展開	東京大学
J06	大規模知識資源の体系化と活用基盤構築	東京工業大学
J07	ジェンダー研究のフロンティア—〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築—	お茶の水女子大学
J11	同位体が拓く未来—同位体科学の基盤から応用まで—	名古屋大学
J13	微生物機能の戦略的活用による生産基盤拠点	京都大学
J14	東アジア世界の人文情報学研究教育拠点—漢字文化の全き継承と発展のために—	京都大学
J15	循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント	岡山大学
J16	社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点	広島大学
J18	感覚特性に基づく人工環境デザイン研究拠点	九州大学

### 3. 「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択拠点)における 中止となった拠点の評価について

[中止拠点の評価コメント]

#### ◆社会科学

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
I18	金融市場のミクロ構造と制度設計	東京都立大学	社会科学研究科経済政策専攻	教授	渡部 敏明

※上記の拠点については、大学から平成16年12月をもって、「21世紀COEプログラム」を辞退したいとの申し出があり、拠点形成が中止となったことから、これまでの進捗状況について、評価コメントをとりまとめた。

<評価コメント(まとめ)>

□当初の目的に沿って、計画が進み始めた拠点が当該大学の再編の過程で研究者の流出を招き、中止せざるを得ない状況となったことは遺憾である

#### ◆数学・物理学・地球科学

拠点番号	拠点のプログラム名称	機関名	中核となる専攻等名	職名	リーダー名
G12	等式が生む数学の新概念	名古屋大学	多元数理科学研究科 多元数理科学専攻	教授	宇澤 達

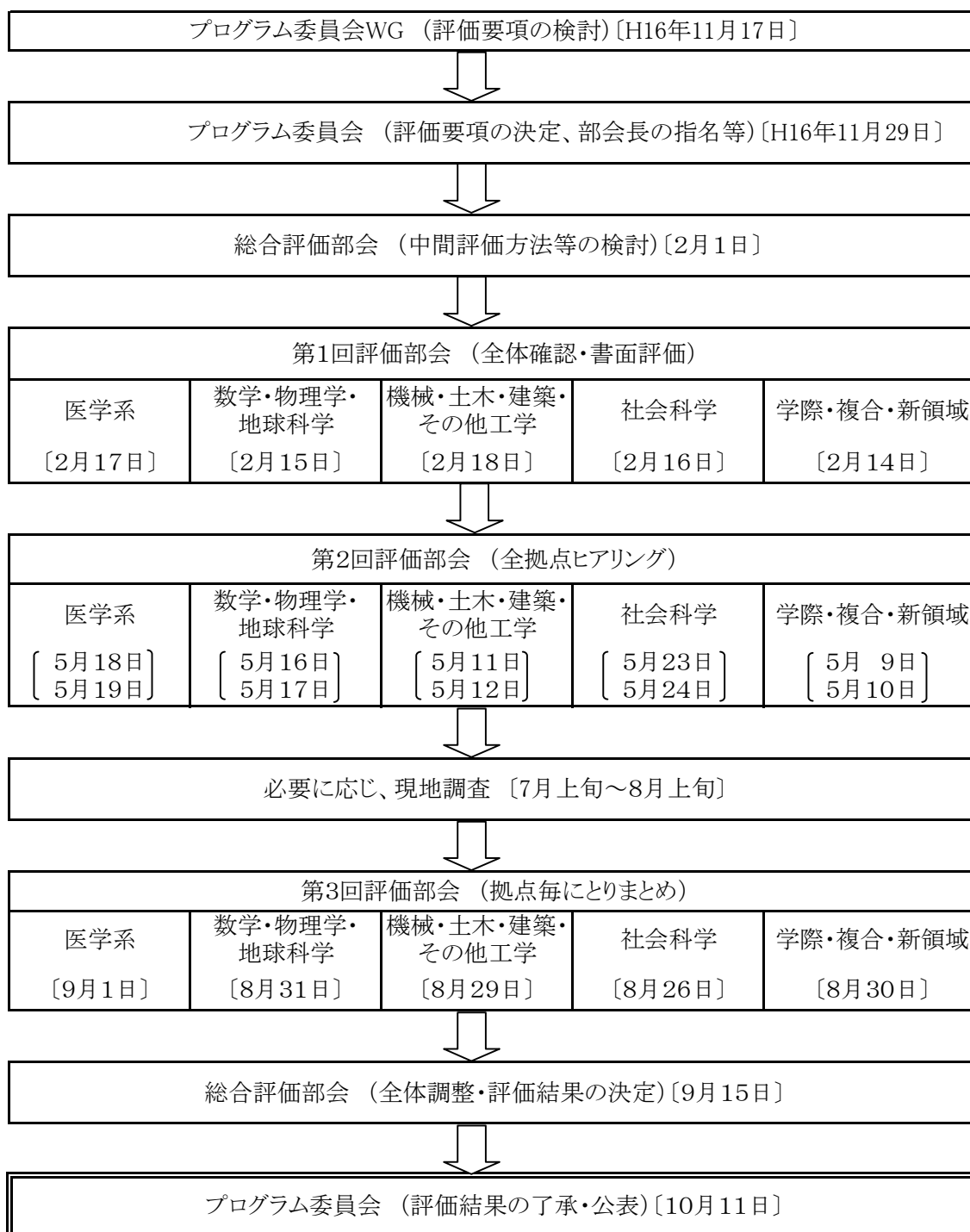
※上記の拠点については、大学から平成17年9月をもって、「21世紀COEプログラム」を辞退したいとの申し出があり、拠点形成が中止となったことから、これまでの進捗状況について、評価コメントをとりまとめた。

<評価コメント(まとめ)>

□当初の期待と現在の進捗状況との間に大きな隔たりがあり、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と判断せざるを得ない状況であった

#### 4. 「21世紀COEプログラム」平成15年度採択拠点中間評価日程

〈平成15年度採択拠点分野〉



## 5. 「21世紀COEプログラム」各種委員会委員名簿



## 「21世紀COEプログラム委員会」委員名簿

	青木 昌彦	スタンフォード大学名誉教授
	安西 祐一郎	慶応義塾長
	生駒 俊明	一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授
〈副委員長〉	石井 米雄	人間文化研究機構長
	岩男 壽美子	武蔵工業大学環境情報学部教授
〈委員長〉	江崎 玲於奈	茨城県科学技術振興財団理事長
	小野 元之	独立行政法人日本学術振興会理事長
	勝木 元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
	金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
	金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	岸 輝雄	独立行政法人物質・材料研究機構理事長
	木村 孟	独立行政法人大学評価・学位授与機構長
	清成 忠男	法政大学学事顧問
	郷 通子	お茶の水女子大学長
	小宮山 宏	東京大学総長
	白井 克彦	早稲田大学総長
	末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
	鈴木 昭憲	秋田県立大学長
	田中 成明	関西学院大学大学院司法研究科教授
	丹保 憲仁	放送大学長
	外村 彰	株式会社日立製作所フェロー
	鳥居 泰彦	日本私立学校振興・共済事業団理事長
	長田 豊臣	立命館総長
	中村 桂子	JT生命誌研究館長
	西澤 潤一	首都大学東京学長
	野中 ともよ	株式会社ティオーエムファクトリー代表取締役
	増本 健	財団法人電気磁気材料研究所長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

## 「21世紀COEプログラム委員会」WG委員名簿

青木 昌彦	スタンフォード大学名誉教授
生駒 俊明	一橋大学大学院国際企業戦略科客員教授
< 座長 > 石井 米雄	人間文化研究機構長
岩男 壽美子	武蔵工業大学環境情報学部教授
金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
丹保 憲仁	放送大学長
外村 彰	株式会社日立製作所フェロー
中村 桂子	JT生命誌研究館長
増本 健	財団法人電気磁気材料研究所長
山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

## 「21世紀COEプログラム委員会」総合評価部会委員名簿

	青木 昌彦	スタンフォード大学名誉教授
<副部会長>	石井 米雄	人間文化研究機構長
	五百旗頭 眞	神戸大学大学院法学研究科教授
	生駒 俊明	一橋大学大学院国際企業戦略科客員教授
	岩男 壽美子	武蔵工業大学環境情報学部教授
	落合 卓四郎	日本体育大学自然科学教室教授
	勝木 元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
	金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
	金森 順次郎	財団法人国際高等研究所長
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	久城 育夫	東京大学名誉教授
	小山 健夫	株式会社日本海洋科学顧問
	齋藤 英彦	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター院長
	笹月 健彦	国立国際医療センター総長
	末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
	丹保 憲仁	放送大学長
	立本 成文	中部大学国際関係学部教授
	外村 彰	株式会社日立製作所フェロー
	三井 誠	同志社大学大学院司法研究科教授
	永井 克孝	株式会社三菱化学顧問
	中村 桂子	JT生命誌研究館長
<部会長>	増本 健	財団法人電気磁気材料研究所長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

## 「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿(医学系)

(分属する委員)

<部会長>	金澤 一郎	国立精神・神経センター総長
	勝木 元也	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
	山田 康之	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

(専門委員)

	赤沼 安夫	財団法人朝日生命成人病研究所長
	安達 恵美子	医療法人社団翠明会山王病院感覚器病センター長
	阿部 光幸	兵庫県立粒子線医療センター名誉院長
	岩永 貞昭	九州大学名誉教授
	垣添 忠生	国立がんセンター総長
	加藤 熙	総合歯科医療研究所長
	小島 通代	聖隷クリストファー大学看護学部教授
<副部会長>	齋藤 英彦	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター院長
<副部会長>	笹月 健彦	国立国際医療センター総長
	高田 早苗	神戸市看護大学看護学部副学長・教授
	對馬 敏夫	東京女子医科大学名誉教授
	津本 忠治	独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター 津本研究ユニットユニットリーダー
	西川 伸一	独立行政法人理化学研究所発生再生科学総合研究センター 副センター長
	野澤 義則	財団法人岐阜県国際バイオ研究所理事長
	野本 明男	東京大学大学院医学系研究科教授
	久道 茂	宮城県病院事業管理者
	淵端 孟	大阪産業大学歯科衛生士学院専門学校長
	吉田 光昭	東京大学名誉教授

## 「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員(数学・物理学・地球科学)

(分属する委員)

<部会長> 金森 順次郎 財団法人国際高等研究所長  
増本 健 財団法人電気磁気材料研究所長  
外村 彰 株式会社日立製作所フェロー

(専門委員)

井川 満 京都大学大学院理学研究科教授  
石田 瑞穂 独立行政法人防災科学技術研究所研究主監・フェロー  
伊藤 厚子 お茶の水女子大学名誉教授  
井上 一 独立行政法人宇宙航空研究開発機構  
宇宙科学研究本部研究総主幹  
江尻 宏泰 財団法人高輝度光科学研究センター参与  
小田 忠雄 東北大学名誉教授  
<副部会長> 落合 卓四郎 日本体育大学自然科学教室教授  
蟹江 幸博 三重大学教育学部教授  
川路 紳治 学習院大学名誉教授  
北川 源四郎 情報・システム研究機構統計数理研究所長  
<副部会長> 久城 育夫 東京大学名誉教授  
小林 俊一 東京大学名誉教授  
齋藤 常正 放送大学客員教授  
壽榮松 宏仁 独立行政法人理化学研究所播磨研究所長  
福山 秀敏 東北大学金属材料研究所材料科学国際フロンティアセンター長  
水谷 仁 ニュートンプレス株式会社編集長  
山崎 敏光 東京大学名誉教授

## 「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿(機械・土木・建築・その他工学)

(分属する委員)

<部会長> 丹 保 憲 仁 放送大学長  
生 駒 俊 明 一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授

(専門委員)

伊 東 諠 東京工業大学名誉教授  
井 上 恵 太 株式会社コンポン研究所顧問  
井 深 丹 タマティーエルオー株式会社代表取締役社長  
木 村 逸 郎 株式会社原子力安全システム研究所技術システム研究所長  
小谷部 育 子 日本女子大学家政学部教授  
<副部会長> 小 山 健 夫 株式会社日本海洋科学顧問  
白 井 良 明 立命館大学情報理工学部教授  
仙 田 満 株式会社環境デザイン研究所会長  
高 木 不 折 名古屋大学名誉教授  
龍 岡 文 夫 東京理科大学理工学部教授  
友 澤 史 紀 日本大学理工学部建築学科教授  
中 川 威 雄 ファインテック株式会社代表取締役社長  
中 島 尚 正 独立行政法人産業技術研究所理事  
服 部 岑 生 千葉大学大学院自然科学研究科教授  
濱 田 政 則 早稲田大学理工学部教授  
藤 田 睦 博 財団法人日本気象協会北海道支社顧問  
松 井 三 郎 京都大学大学院地球環境学堂教授  
松 本 浩 之 東京工業高等専門学校長

## 「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿(社会科学)

(分属する委員)

<部会長> 青木 昌彦     スタンフォード大学名誉教授  
          岩男 壽美子     武蔵工業大学環境情報学部教授

(専門委員)

<副部会長> 五百旗頭 眞     神戸大学大学院法学研究科教授  
          伊藤 滋     早稲田大学特命教授  
          猪木 武徳     人間文化研究機構国際日本文化研究センター教授  
          川村 正幸     一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授  
          小山 貞夫     関東学園大学法学部教授  
          副田 義也     金城学院大学現代文化学部教授  
          谷川 久     日本エネルギー法研究所常務理事・所長  
          中兼 和津次     青山学院大学国際政治経済学部教授  
          八田 達夫     国際基督教大学教養学部国際関係学科教授  
          浜田 道代     名古屋大学大学院法学研究科教授  
          林 敏彦     放送大学教授  
          星 岳雄     カリフォルニア大学サンディエゴ校教授  
          三谷 太一郎     東京大学名誉教授  
<副部会長> 三井 誠     同志社大学大学院司法研究科教授  
          宮本 又郎     大阪大学大学院経済学研究科教授  
          八代 尚宏     国際基督教大学教養学部社会科学科教授  
          山影 進     東京大学大学院総合文化研究科教授  
          吉田 民人     東京大学名誉教授  
          吉野 洋太郎     ハーバード大学ビジネススクール名誉教授  
          六本 佳平     東京大学名誉教授

## 「21世紀COEプログラム」分野別評価部会委員名簿(学際・複合・新領域)

(分属する委員)

<部会長>	末松 安晴	情報・システム研究機構国立情報学研究所顧問
	川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館長
	中村 桂子	JT生命誌研究館長

(専門委員)

	甘利 俊一	独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター長
	押川 文子	人間文化研究機構国立民族学博物館 地域研究企画交流センター教授
	柏木 恵子	文京学院大学人間学部教授
	黒川 洸	財団法人計量計画研究所理事長
	佐藤 次高	早稲田大学文学部教授
	清水 康敬	独立行政法人メディア教育開発センター理事長
	鈴木 基之	放送大学教授
	竹中 千春	明治学院大学国際学部教授
<副部会長>	立本 成文	中部大学国際関係学部教授
	田中 隆治	サントリー株式会社顧問・技術監
	鶴尾 隆	東京大学分子細胞生物学研究所教授
	寺西 俊一	一橋大学大学院経済学研究科教授
	土井 利忠	ソニー・インテリジェンス・ダイナミクス研究所株式会社代表取締役社長
	東倉 洋一	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長
<副部会長>	永井 克孝	株式会社三菱化学顧問
	長尾 拓	国立医薬品食品衛生研究所長
	中澤 晶子	山口大学名誉教授
	西野 麻知子	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター総括研究員
	福嶋 義宏	人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授
	松原 謙一	株式会社DNAチップ研究所社長
	本島 修	自然科学研究機構核融合科学研究所長



## 6. 「21世紀COEプログラム」評価要項

平成16年11月29日  
21世紀COEプログラム委員会

研究拠点形成費補助金（以下、「補助金」という。）により実施される「21世紀COEプログラム」事業の中間・事後評価は、この評価要項により行うものとする。

### 1. 評価の目的

補助金による「21世紀COEプログラム」事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分（重点的・効率的配分）に資することを目的とする。

21世紀COEプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野毎に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とする。

### 2. 評価の時期

「21世紀COEプログラム」に採択された各研究教育拠点（以下、「各拠点」という）の補助事業について、2年経過後に中間評価、期間終了後に事後評価、必要に応じてフォローアップを実施する。

### 3. 評価委員

分野別審査・評価部会における評価委員の構成は、次のとおりとする。

- ① 各拠点の選定に係る審査状況、審査経過等を熟知している専門家や有識者
- ② 各拠点の選定に携わっていない者で、専門的観点から高い知見を有する専門家や有識者

### 4. 評価の実施

補助事業の進捗状況等の評価を行うにあたり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、評価項目、評価方法（評価資料、評価過程・手続等）を次のとおりとする。

#### （1）評価項目

##### ① 運営状況

（中間評価）

- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援が行われているか
- ・当初の拠点形成の目的に沿って計画は着実に進展しているか
- ・研究活動において、新たな学術的知見の創出や特筆すべきことがあったか
- ・若手研究者が有為な人材として活躍できるような仕組みを措置し、機能しているか
- ・拠点リーダーを中心として事業推進担当者相互の有機的な連携が保たれ、活発な研究活動が展開される組織となっているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資するための取組みを行っているか
- ・研究経費は効率的・効果的に使用されているか
- ・国内外に向けて積極的な情報発信が行われているか

(事後評価)

- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援が行われたか
- ・当初の拠点形成の目的は達成できたか
- ・研究活動において、新たな学術的知見等があったか
- ・若手研究者の育成効果があがっているか。また、それは、研究教育拠点形成に寄与しているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資することができたか
- ・補助事業終了後の発展を期待できるのか

② 留意事項への対応

(中間評価)

- ・「21世紀COEプログラム委員会」の審査結果による留意事項への対応を適切に行っているか

(事後評価)

- ・「21世紀COEプログラム委員会」の審査結果・中間評価結果による留意事項への対応を適切に行っているか

③ 今後の展望

(中間評価)

- ・今後、拠点形成を進める上で改善点を検討し、適切に対応しているか
- ・COEとして、研究を通じた人材育成の評価、国際的評価、国内の関連する学会での評価、産学官連携の視点からの評価、社会貢献等が期待できるか
- ・拠点形成計画が目的の実現に向け着実に実施されており、当初目的の達成が期待できるか

(事後評価)

- ・補助事業終了後、大学として、世界的な研究教育拠点の形成に際し、継続的な研究教育活動が実施できるような支援を考慮しているか

④ その他

(中間評価)

- ・学内外に対しどのようなインパクト等を与えたか

(事後評価)

- ・国際的拠点として特色を国内外に効果的に示すことができたか

## (2) 評価方法

21世紀COEプログラムの評価は、分野別審査・評価部会（各年度の評価対象部会は6．評価体制に記載）において書面・合議評価及びヒアリング・合議評価により実施される。（7．評価手順を参照）

各審査・評価部会は、評価の重複を避けるよう既に行われた審査・評価結果を活用し、評価目的や評価対象に応じた適切な方法により、中立・公平かつ効率的・効果的な評価を行う。

① 書面・合議評価

評価委員は、各拠点について次の評価資料により個別評価を行い、合議により評価を行う。

(中間評価)

- ・「21世紀COEプログラム」中間評価用調書
  - a) 進捗状況報告書(主な発表論文の抜刷を添付)
  - b) 拠点形成計画調書 等
- ・審査結果表
- ・拠点形成計画調書（審査結果表に基づく修正版）

(事後評価)

- ・実績報告書（5年間まとめ）（主な発表論文の抜刷を添付）
- ・審査結果表及び中間評価結果表
- ・拠点形成計画調書（審査結果表に基づく修正版）
- ・進捗状況報告書・拠点形成計画調書（中間評価結果表に基づく修正版）

## ② ヒアリング・合議評価

各審査・評価部会において、評価委員は上記の評価資料等を基礎にした各拠点の説明に対し、個々の個別評価(書面評価)に基づきヒアリングを行い、その後合議評価をし、拠点形成(補助事業)の今後の進め方や助言等をまとめる。

なお、ヒアリング・合議評価を行った上で、必要に応じ、a)学長同行の再ヒアリング、b)現地調査を実施する。

## ③ 評価の決定・了承

各審査・評価部会は各拠点の評価結果をまとめ、総合評価部会に報告する。その報告を受け、総合評価部会は、各審査・評価部会等における各拠点の評価結果について全体調整を行い、各拠点の評価結果を決定する。

なお、各審査・評価部会において当初目的の達成は困難であると判断された拠点については、調整部会が反論等の機会を設けて、当初目的の絞り込みによる計画の大幅な縮小又は中止の必要性等について評価を行う。

総合評価部会は、各拠点の評価結果を21世紀COEプログラム委員会に報告し、了承を得る。

## 5. その他

### (1) 評価の反映

21世紀COEプログラム委員会は、了承した各拠点の評価結果を文部科学省に報告し、文部科学省が行う第4年次以降の補助金の適正配分(増額、減額又は廃止等)に資する。また、拠点形成の推進に向けて適切な助言を行うために、各拠点に対しこの評価結果を通知(開示)する。

### (2) 評価の公開等

- ① 評価に係る審議は非公開とし、その経過は他に漏らさない。
- ② 評価終了後、各拠点の中間・事後評価結果及び進捗状況等をホームページへの掲載等により公開する。

### (3) 利害関係者の排除

各拠点と関わりのある次の者(利害関係者)は、評価を行わない。

- ① 大学院等の運営に関与している者(例:学長、副学長、研究科長)
- ② 各拠点のリーダー及び事業推進担当者
- ③ 各拠点のリーダーが所属する組織(例:大学院研究科専攻等)の構成員
- ④ その他中立・公平に評価を行うことが困難と判断される者

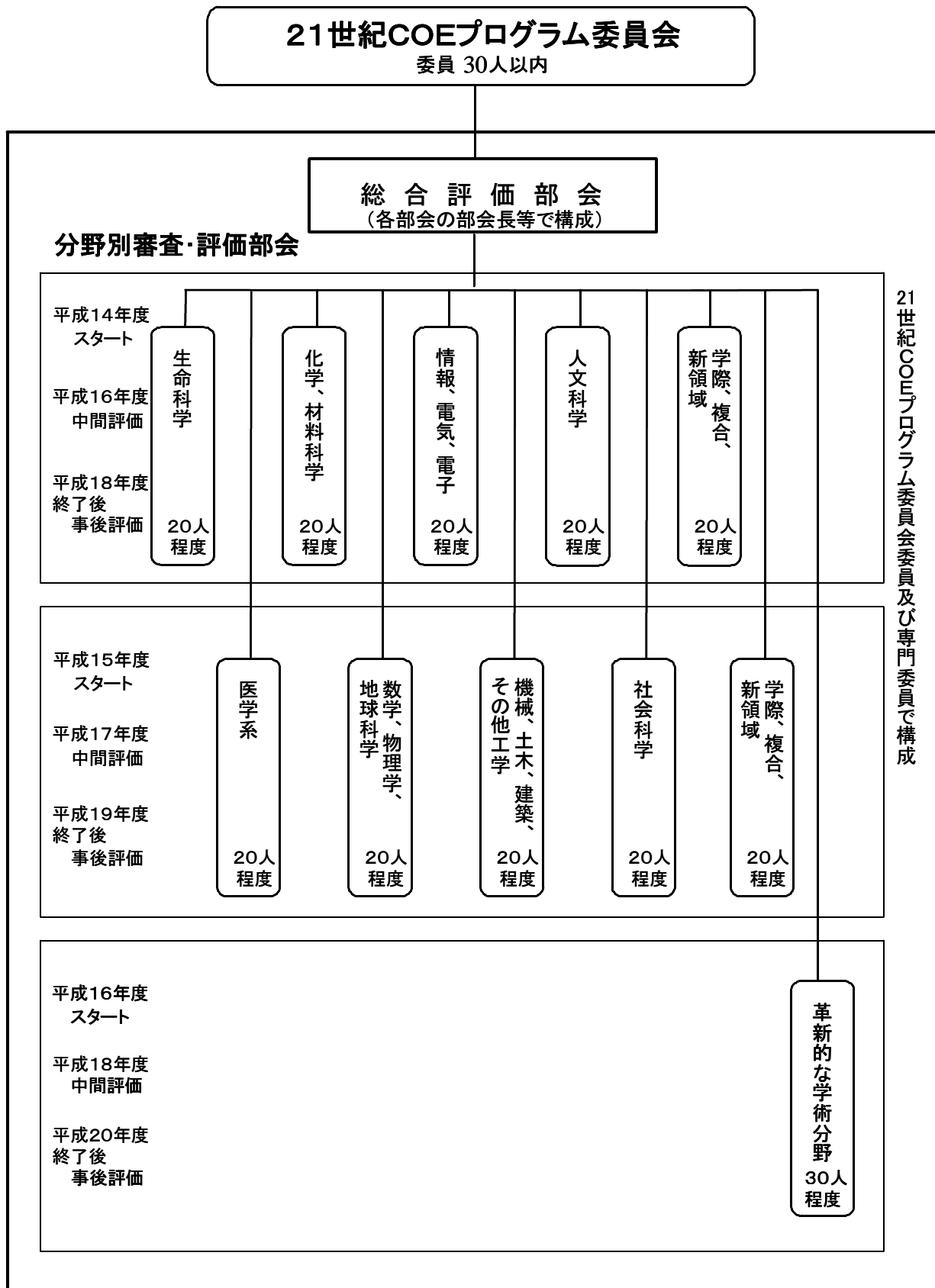
### (4) フォローアップ

各審査・評価部会は、中間評価結果を受けての対応状況について、必要に応じ、その状況を確認することができる。

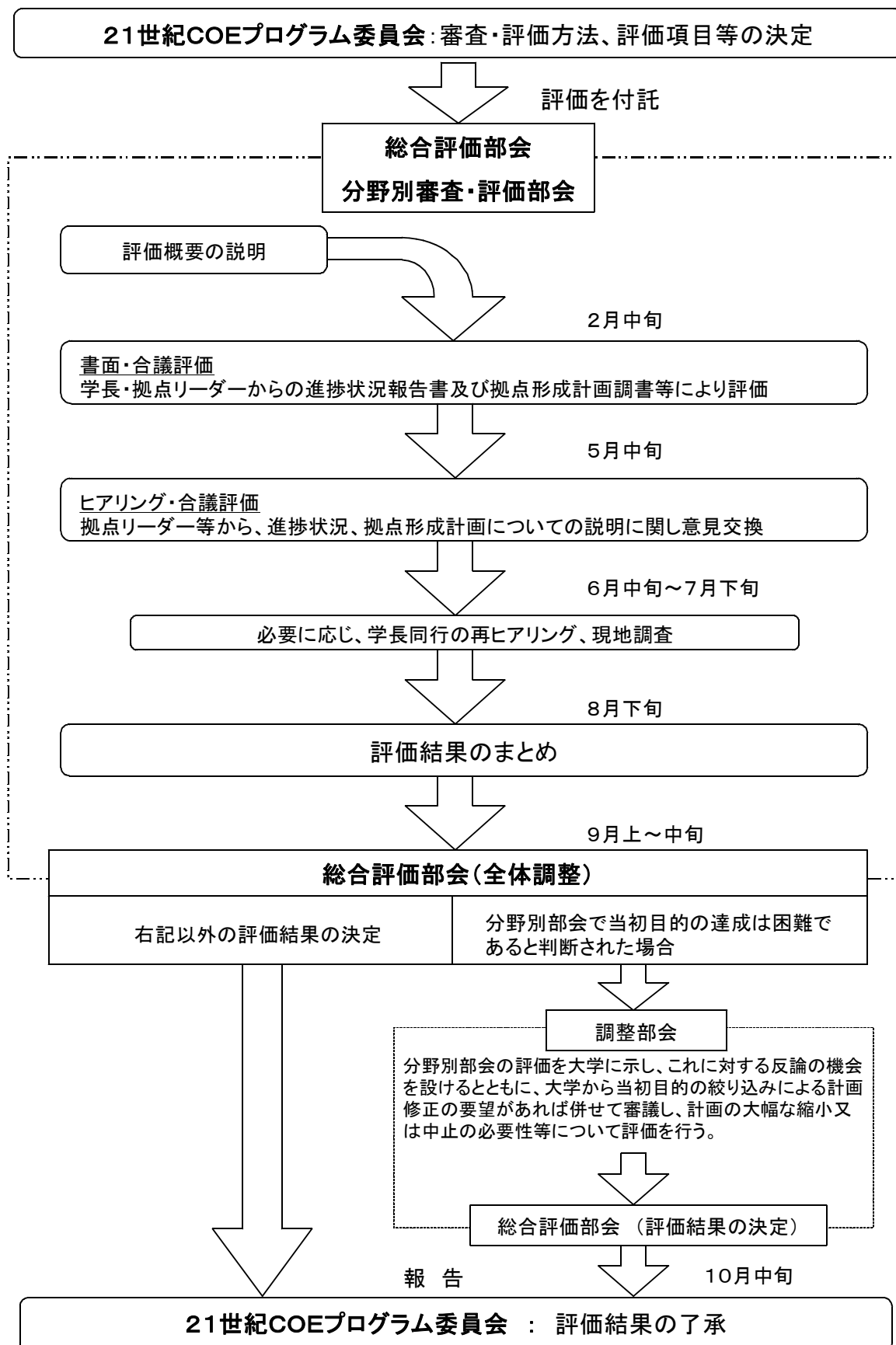
### (5) その他

この要項に定めるもののほか、評価の実施に関し必要な事項は別に定める。

## 6. 評価体制



## 7. 評価手順



## 7. 「21世紀COEプログラム」（平成15年度採択拠点） 中間評価について（個別具体例）

### 〈 医学系 〉

#### 京都大学「病態解明を目指す基礎医学研究拠点」

世界最高水準の拠点として、特に遺伝子異常が密接に関連することが明確な、免疫、癌、老化の各分野の研究活動において、優れた業績を上げ、各分野間の有機的な連携にも配慮がなされており、若手研究者の育成にも有効な工夫と戦略が認められ成果を上げるなど、研究教育拠点形成の実現に向けた取り組みが順調に進められている。

#### 慶應義塾大学「幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点」

世界最高水準の拠点として、幹細胞生物学・再生医学、免疫学・自己免疫疾患研究において、世界レベルの研究成果を上げており、基礎・臨床が総力を上げて難治性疾患の病態解明と新しい治療法の研究開発とそれに向けた将来の人材育成を目指すなど、研究教育拠点としての取り組みが順調に進められている。

#### 兵庫県立大学「ユビキタス社会における災害看護拠点の形成」

ユビキタス社会の発想を基幹とした災害看護という初めての専門コースを設置し、国内外から災害看護に関してコンサルテーションや情報提供の要請を受けるなど学内外に対するインパクトがある。また、国際防災世界会議において、災害と健康の重要性を認識させるなど、学会等における活発な活動もなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として推進されている。

#### 自治医科大学「先端医科学の地域医療への展開」

地域医療推進と先端医科学研究（遺伝子治療を含むゲノム医療／再生医療）の2本柱で研究教育を行うなど大変ユニークな取り組みがなされ、また、大規模地域ゲノムタンパクプロジェクトの取り組みは極めて重要であり、研究参加者同士の連携も十分図られ、我が国のスタンダードになることが期待されるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

#### 東京医科歯科大学「歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア」

若手研究者の育成や大学院生の教育の面において、シャペロン教員制度やスーパースチューデント制度といった、極めてユニークかつ有効な人材育成システムを設けており、その成果は国際的にも高い評価を得るなど、世界をリードする人材育成が順調に進められている。

#### 長崎大学「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」

熱帯病・新興感染症制圧に関し、海外の研究教育機関・病院と密接な連携を図り、感染症専門医師や感染症研究者を海外拠点連携病院・研究所で養成することを目的としており、現地の医療従事者が参加しやすいプログラムが展開され、そこで、日本の若手研究者も一緒に教育を受けるなど大変意義深い人材育成の取り組みがなされている。

## 〈 数学・物理学・地球科学 〉

### 東京大学「強相関物理工学」

世界最高水準の拠点として、世界レベルの若手教員の採用と研究室立ち上げの支援を行い、既に成果を上げており、人材育成については「応用物理分野における次世代の世界的リーダーを輩出すること」を目標に掲げ、世界レベルの研究教育ネットワークによる研究成果の発信がなされるなど、世界に開かれた研究教育拠点形成の実現に向けた取り組みが順調に進められている。

### 京都大学「先端数学の国際拠点形成と次世代研究者育成」

世界最高水準の拠点形成を通じて、事業推進担当者や若手研究者が藤原賞、日本数学会春季賞・秋季賞を受賞するなど多くの成果が出ており、国際的な研究集会在日常的に行われているといった環境の整備なども含め、研究教育拠点形成の実現に向けた取り組みが順調に進められている。

### 東北大学「物質階層融合科学の構築」

ニュートリノ研究、ハイパー原子核研究、強相関電子物理学研究、非線形数学研究において学内外に対するインパクトがあり、物質階層融合科学研究の国際的な教育研究拠点としての活動がなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 北海道大学「特異性から見た非線形構造の数学」

学内他専攻の研究者が、先端研究を推進する上で生じた数学上の質問を受け付け、その解決に取り組む「先端研究のための数学センター」を設置し、積極的に他分野の問題を数学に取り込もうとするなど極めてユニークな取り組みがなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 岡山大学「固体地球科学の国際研究拠点形成」

超高圧・高温実験と総合的地球化学分析ならびに年代測定技術といった、高度な実験・分析の手法を駆使して地球物質科学研究を実施できる世界的にも極めてユニークな拠点であり、国際的な研究教育環境が整備され、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 東北大学「先端地球科学技術による地球の未来像創出」

理学、工学の異なる分野の連携・融合という目的を実現するカリキュラムを組み、地学・地球物理学・環境科学の3専攻の相互の単位取得を容易にするといった取り組みが行われるなど、世界をリードする幅のある研究者の育成が期待される拠点として順調に推進されている。

## 〈 機械・土木・建築・その他工学 〉

### 東京大学「都市空間の持続再生学の創出」

世界最高水準の拠点として、都市空間の持続再生学の創成に必要な要素研究が進展しており、アジア各都市の主要関係研究機関を網羅した国際共同研究組織を結成し、多元的な国際共同アクション・スタディを展開するなど、国際会議の組織開催と大学院生の会議参加が活発に行われており、研究教育拠点形成の実現に向けた取り組みが順調に実施されている。

### 名古屋大学「情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス」

世界をリードする、マイクロナノ領域におけるシステム化技術に関する潜在的能力を最大限に発揮し、システム化技術を開発することにより、ナノテクノロジーを実用化する技術の体系化を目指して、国際競争力のある活発な取り組みが順調に推進されている。

### 熊本大学「衝撃エネルギー科学の深化と応用」

研究教育活動を行うにあたって重要となる世界レベルの研究施設・設備が構築され、平和利用を目指した爆薬実験施設や衝撃エネルギー連続発生装置、超重力エネルギー発生装置等を駆使してユニークな研究活動がなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 東京工芸大学「都市・建築物へのウインド・イフェクト」

強風災害や気流と都市・建築物に関わる諸問題の解決を目的とし、APEC 諸国の強風防災センターや研究者とのネットワーク等を通じた普及活動がなされ、国際的にも高い評価を得るなど、学内外にインパクトを与え、風工学研究センターの国際的な拠点となることが期待されている。

### 立命館大学「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」

文化遺産をもつ歴史都市の防災研究を目的として、文化遺産防災連絡会議の設立や、国連防災世界会議におけるユネスコや国土交通省、消防庁、文化庁からの協力を得たことにより、歴史都市を持つ国々との連携等が期待されるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 北海道大学「流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム」

世界をリードする創造的な人材育成に力を入れ、研究レベルの向上と国際性を身につけさせるために、若手研究者を世界トップレベルの研究機関へ派遣するなど、大学院生、若手研究者の育成が順調に行われている。



## 〈 社会科学 〉

### 東京大学「ものづくり経営研究センター」

我が国の「ものづくり知」「産業知」を産業界の代表的企業とのコンソーシアムの形成によって、体系化・理論化し、国際的に発信するという従来の我が国の社会科学には見られなかった研究体制を構築しつつあり、本来の研究面における使命に加え、産業界・国際間の技術移転を促進するという社会貢献をもねらいとした世界に他に類を見ない研究教育拠点形成の実現へ向けた取り組みが順調に進められている。

### 政策研究大学院大学「アジアの開発経験と他地域への適用可能性」

国際開発政策に関して、政策枠組みを重視する傾向にある国際機関や欧米の学界に対し、本拠点は東アジアにおける貧困削減について、経済成長の実態を実証的に検証し、他途上国へのその経験の移植可能性を比較分析的に追求し、国際的視野での政策研究の拠点を目指している。特に、ベトナムにおける調査研究拠点の形成、途上国および日本の開発担当行政官や研究者を対象とする大学院教育プログラム、個別の国・分野の研究に限定されない比較分析を視野に入れているなど、世界水準での研究教育拠点形成に向けた取り組みが順調に進められている。

### 東京大学「国家と市場の相互関係におけるソフトロー」

国の法律として最終的には裁判所による強制力を持った規範に対し、これまで日本では比較的軽視されてきた非公式の規範、規制、民間協約などの、ソフトローの実体の解明と理論分析を目的としており、研究教育用のデータ構築、ビジネスローにおける国際的な研究・実務に携わる専門家の育成について国際水準の努力が期待され、また法学の分野での開かれた研究にインパクト与えつつある拠点として順調に推進されている。

### 大阪大学「アンケート調査と実験による行動マクロ動学」

個人合理性を仮定した従来の経済学の基本的仮説に対し、アンケート調査、実験経済学、心理学等の他分野との協力などによって、経済学が実証的な科学として成立するための方法論・データを確立し、統一された行動経済学の研究拠点を形成しようという活動は、今日の経済学のフロンティアにおける問題意識と合致し、世界水準での研究の発展に資することが期待される拠点として順調に推進されている。

### 慶應義塾大学「多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成」

日本・韓国・EU等における市民意識調査や行動に関する様々なデータが着実に蓄積されており、メディアの内容分析についてもより精緻な技術的工夫がなされ、研究体制を組織するための学内・学外の諸機関との有機的連携も図られるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 神戸大学「先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点」

現場に根ざした調査を核として、ビジネスシステムの研究と教育を相乗的に発展させる独自の教育プログラムにより、次世代の若手研究者の育成が実施されており、教育研究拠点の形成に向けた取り組みが順調に推進されている。

## 〈 学際・複合・新領域 〉

### 富山医科薬科大学「東洋の知に立脚した個の医療の創生」

東洋医学に近代科学の新しい手法を積極的に取り入れ検証していこうとする姿勢により、新しい統合医学の方向性を呈示することを目指しており、既にプロテオーム解析が試みられ、それらの具体的な成果も上げられつつあるなど、世界をリードする研究教育拠点の形成に向けた取り組みが順調に実施されている。

### 京都大学「ゲノム科学の知的情報基盤・研究拠点形成」

世界最高水準の拠点として、ゲノムとケミストリーを融合したバイオインフォマティクスにより生命の情報システムを理解することを目指しており、拠点リーダーの研究グループの成果はKEGGとして国際的にも広く認識され、国際競争力のある活発な取り組みが順調に進められている。

### 北海道大学「スラブ・ユーラシア学の構築」

「中域圏」の概念を精緻化して、新しい地域研究として系統的に学問の枠組みと方法論が構築されつつあるなど、学内外にインパクトがあり、理論化に挑戦したスラブ・ユーラシア学地域研究の研究教育拠点として大いに期待がもてるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 徳島大学「ストレス制御をめざす栄養科学」

成分研究が主流であった栄養科学の分野において、ストレス評価用のDNAチップや新規ナノバイオデバイス技術といった新しい遺伝子技術を用いるユニークな試みにより、ストレス・栄養科学の新しい領域の創設を目指す拠点形成が進められるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されている。

### 九州工業大学「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」

大学院生に対して半年毎に全く異なる専門分野の研究室で専門教育を行うことにより、多分野をカバーできる研究者を育成しようとするなど、広範囲の領域を取り扱うことを逆用した試みが上手く機能しており、脳情報工学の分野において世界をリードする若手研究者の育成がなされている。